

年 組 名前

2020年6月9日付



通風筒

◇：滋賀県長浜市湖北町の琵琶湖岸で、黒い冠羽が特徴のカムリカイツブリが、子育ての季節を迎えた。親鳥の背中から、愛らしいひなが顔をのぞかせている写真。

◇：日本のカイツブリ科では最大種で成鳥は体長約六〇センチ。本来冬の渡り鳥だが、琵琶湖には三十年ほど前からすみ着くようになった。ひなをトビやカラスなどから守るため、ふ化して十日から二週間、親鳥が背中に乗せて育てる。

◇：同市の湖北野鳥センター近くの湖上では八日、ひなが親鳥の差し出す餌をついばんだり、時折水面に下りて親鳥を追うように泳いだりしていた。同センターによると、子育ての姿は七月中旬まで見られるという。ひなにとって親鳥の背中は「見る」ものではなく、「乗る」ものだった。

※ 大人の人に記事を読んでもらって考えましょう。

問1：なぜ親鳥はひなを背中に乗せて育てるのでしょうか。

()

問2：親鳥はどんなことを話しているのか想像して、吹き出しに書きましょう。